

令和元年度事業



古民家／宙(そら)ーこどもの「ひみつきち」の森づくり

千葉県千葉市



事業概要

かつて適切に管理されていた里山林は、その後スギ溝腐れ病の蔓延、周辺の都市化や土地開発に伴う林地の売買、所有者の世代交代などを背景に管理がほとんど行われなくなり、今では荒廃してしまっている。そこで、森林資源の循環的な利用の復活・再生のため、当該山林の所有者や都市部に住むその知人・友人とその子ども、住民や森づくりNPO等と連携し、タケや枯損木等の伐採、歩道の整備などとともに、伐採したタケを活用したランプづくりなどの工作や里山自然体験活動を行った。

事業成果

元年度前半までは、近隣住民や周辺で活動する団体等との協力関係を強化できたほか、台風15号被害をきっかけに、新たに都市部のボランティアとの繋がりをつくることができた。しかし、元年度後半からは新型コロナウイルスの影響で思うように活動が進んでいない。

事業をよく知る関係者の声

- ・裏山整備がせっかく軌道に乗ったところでコロナ禍となり、大人も大変だが子どもたちの遊びの場が少なくなるのは切ない。子ども向けの森林教室も実現できず残念。(地元森づくりNPO関係者)

参加者の声

- ・台風でスギ大木が倒れて自然の猛威に驚いたとともに、手入れを怠ったための芯腐れが風倒の一因だと聞き、森を手入れすることの大切さを実感した。(ボランティア)
- ・指導者の方がロープ一本で大木に上り、枝をチェーンソーで切り落とす作業に感心した。(親子での活動参加者)
- ・タケは、軽そうに見えても実際に伐採したり持ち上げると重いことが分かり、タケ駆除の大変さが分かった。(親子での活動参加者)



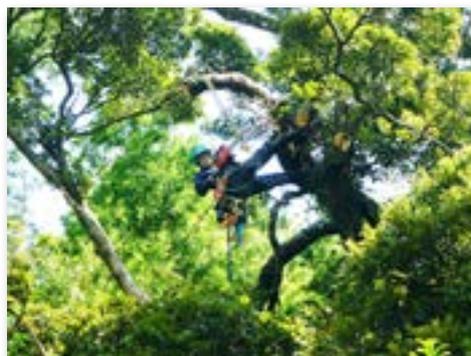
タケの伐採



タケの運び出し



伐採したタケで流しそうめん



危険な樹木の枝を伐採

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.07ha

間伐面積：0.01ha

危険枝除去：2本

参加者数

県内：121人

県外：84人

計：205人

秩父市久那上の山及びその周辺山林の整備と育成

埼玉県秩父市



事業概要

目的は事業名のとおりである。①藪化した雑木林や竹林を除伐し、②森の中の湿地を回復し、③山野草豊かな明るい森、④ホタルの棲息できる森づくりを目標に取り組みを進めてきた。⑤一部のスギ林への侵入タケ、枯損木の除伐、林床整理が進行しつつある。また、⑥一部の竹藪を除伐した。今後そのギャップ地に植樹を行う予定である。⑦地権者の雑木林を借用しコロラード（方形区）調査地を設定した。⑧季節ごとに、植生調査、観察とあわせて、周辺山林での山菜狩り体験を行っている。⑧地域の物産交流「くんなまつり」に参加し、会で手がけた観賞炭・竹炭・草木染作品の展示販売や子どもを対象にクラフト遊びを行った。

事業成果

コロナ禍により、数回の活動中止を余儀なくされたが、感染防止に配慮しつつ、活動をつなげてきた。除伐した枯竹の燃焼処理や除伐材の薪づくり、倒木処理、ホタルの沢づくり、竹炭づくり、植生調査等を楽しみ取り組んでいる。

事業をよく知る関係者の声

- ・刈払機等機材の購入、ソーラーパネルやトイレ設置により、作業環境は良くなった。目標とする森林の整備面積は広いし、植生調査、イベント開催等活動内容も豊富である。コロナ禍のため活動参加者は減少したが、目標を達成するためには、参加者の増員を図ることが重要と思われる。（森林インストラクター）

参加者の声

- ・ヘルメット腰に二丁差しをつけ、うっそうとしたタケ藪に突入。それぞれ黙々と作業する。たわんだタケ、倒れたタケ、折れたタケを伐って枝を払い束ねて運ぶ。骨は折れるが、やがて少しずつ広がる足場に陽光が届き、覆われていた実生の幼木が息を吹き返す。さあどんな森になるかしら？いえ、どんな森にしましょうか？仲間と共に小さな里森の誕生を喜べるかけがえのない時間です。（50代女性）



林床と林内湧水路の整備



竹林を整備



独奏と篠笛づくり



くんなまつり「森の会」のテント、観賞炭（花炭）が人気

実績とりまとめ

作業内容

除伐：0.8ha
くんなまつり：1回
竹炭焼体験：2回
観賞炭づくり体験：1回
里森生態調査：6回
ホタルの堤づくり：3回
チェーンソー研修：1回
ロープワーク：1回

参加者数

県内：24人
県外：146人
計：170人

水源の森づくりと木材活用の一体型拠点事業

岐阜県恵那市



事業概要

矢作川上流域の水源地域である岐阜県恵那市上矢作町において、水源林保全と木材活用の重要性を普及啓発していくことをめざし、水源整備および地元木材を活用した山里文化体験の拠点整備および間伐材の利活用推進を一体的に実施する。主な活動は以下のとおり。①森林整備と活用に親しむための広場整備、②次世代の森林ボランティア育成と森林整備、③森林資源活用の推進。

事業成果

次世代育成と森林整備として間伐技術を学ぶ講座や、森林資源活用推進として炭焼き、タケのおもちゃづくり、地元の薪を使ったピザ窯、山里の食文化や野草とその利活用を学ぶ講座などを実施した。いずれも女性や子ども連れの家族層に多く参加いただくことができ、今後への広がりを感じた。

事業をよく知る関係者の声

- ・山里の魅力を多面的に捉えた企画で地域の魅力を引き出し、関係人口の創出につながっている。一方で高齢メンバーの多い団体であり、コロナ禍での活動のあり方と、今後の団体運営のあり方が課題である。地域から他にも若い人材を確保し、同時に自己資金確保のための取り組みも必要になってくる。今後の活動に期待したい。(林業家)

参加者の声

- ・小さい息子もお世話になりました。夫も楽しかったみたいで、3日間参加できなかったのを悔やんでました。また企画してください。(30代女性)
- ・2歳と0歳といっしょという無茶にも快く受け入れてくれて感謝です。これからも里山とともに私も子どもも成長していきたいと改めて感じました。(30代女性)



タケのおもちゃづくり



炭焼き



シイタケ植菌



野草講座

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.05ha
 森林資源活用：25本
 植生調査：3回
 クラフト体験：3回
 森林教室：2回
 山里文化体験：4回

参加者数

県内：213人
 県外：51人
 計：264人

福を呼ぶ「フクギさんぽ道」プロジェクト(最終年)

沖縄県那覇市



事業概要

那覇市では、都市緑化を推進するため、昭和58年に市民からの公募によりフクギを那覇市木として制定した。

フクギはこれまでも市木として公園内や街路樹等として市民に親しまれてきたが、たとえば備瀬集落のフクギ並木のように、那覇市内のフクギとしてすぐに思い浮かべられるような名所がないのが現状である。

沖縄県内の都市部の市民が緑に親しみ、那覇市のシンボルとして誇りをもてる「フクギさんぽ道」をめざし、企業の協力を得て、新都心に50年後100年後にも残るフクギの散歩道づくりをめざし“福を呼ぶ「フクギさんぽ道」プロジェクト”を実施した。このプロジェクトは、都市部の緑化の重要性をアピールするとともに、第43回全国育樹祭のプレイベントとして開催した。コロナ禍の中、令和2年は延期することとなり、今回(令和3年11月20日)、関係者および地域住民代表者により最終年の植樹・育樹作業を行った。

事業成果

今年度は最終年であり、残り100m部分について、フクギ54本の追加植栽と補植5本が実施され、合計224本となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・当該地は、那覇市内で来訪者の多い公園であり、フクギが大きくなり木陰の散歩道となることについて待ち望む声大きい。

参加者の声

- ・地域住民の代表からは、植栽されたフクギが大きくなり緑陰を提供することに期待している声が多かった。今回は子ども達の参加がなく、少し残念な育樹作業となった。



フクギの植樹



参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：541本
下刈：380m

参加者数

県内：30人
計：30人

樹種

フクギ、コバノサンダンカほか

第3回「山と海をつなげるいのちの森づくり植樹祭」

静岡県掛川市



事業概要

源流域の荒廃民有林を社会全体の力で再生するため、市内外からの参加者によって植樹祭を開催し、森林の現状を理解してもらい、保全の大切さを啓発する。主な活動は次のとおり。①針葉樹中心の人工林の除間伐の後の下刈を行い地域樹種の植生を促す、②自然植生が難しい箇所には地域樹種を選定し植樹を行う、③ニホンカモシカやシカによる食害等の対策のための獣除け柵の設置を行う。

事業成果

事業の最終年度として植樹を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染に伴い実施期間を1年延長し、自然植生の劣る箇所に植樹した。ニホンカモシカやシカによる

食害が激しいため、獣除け柵及びネットを設置した。

事業をよく知る関係者の声

- ・今後の社会の課題や動向を見ると、同様な森づくりの必要性は一層高まり、多様な主体が参加する必要がある。その解決策は、社会全体が協働することであるので、NPO法人の活動を評価し、それを社会活動に発展させていくという、行政の動きが非常に重要である。

参加者の声

- ・こんなきれいな水の流れる源流があったんですね。(30代女性)
- ・子どもとこの森へ来て遊ばせてもらっています。今日は、森に感謝の気持ちを込めて木を植えました。(30代女性)



シカ除け柵設置中



作業道整備



ヤマザクラ、ヒメシャラほかを植樹



下刈

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：619本
 下刈面積：0.3ha
 作業道作設：100m
 シカ柵：400m

参加者数

県内：164人
 県外：5人
 計：169人

樹種

ヤマザクラ、ヒメシャラ、イタヤカエデ、コナラ、アカシデ、エゴノキほか

菱小学校多行の松継承事業

群馬県桐生市（桐生市立菱小学校）



事業概要

多行松の保存と継承を通じて、次代を担う児童の豊かな情操を育むとともに、地域の宝を守り愛でる経験を通して、学校目標「菱町を愛する子どもの育成」を実現する。主な活動は以下のとおり。①植樹、②樹木の手入れ、③その他マツ枯れ予防のための樹幹への薬液注入などを行った、④学校行事「多行松の写生コンクール」、児童作品の入賞作品を展示、表彰。児童会主催の「植樹祭」、多行松を大切に、次世代へ引き継いでいけるよう、新しい苗木の植樹を実施。

事業成果

新しい苗木を植樹をしたことで、苗木の成長をしっかりと見守り、次世代へ引き継いでいく心を育てることができ

た。また、植樹祭にはコロナ禍の警戒度が引き下げになったタイミングで行えたため、お世話になっている方々を招くことができ、地域との連携を深めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・多行松は学校や地域のシンボルである。植樹は、先輩から後輩へ末永く受け継いでいこうという気持ちが育ったのではないか。（区長）

参加者の声

- ・植樹を経験して、学校のシンボルである多行松を未来に残るよう大切に育てていきたいと思う。（小学生女子）
- ・新しい苗木といっしょに菱町を愛する心、自然、環境を大切に守っていこうという心も育てほしい。（教員）



多行松の苗木



植樹



大きく枝を広げる多行松



写生大会での作品

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：6本

樹勢回復：1本

剪定：16本

参加者数

県内：395人

計：395人

樹種

多行松（アカマツ）

「もりで遊び!もりで学び!もりで育てる!!」鎌倉タヌキの森プロジェクト

神奈川県鎌倉市



事業概要

幼稚園児の遊び場となっているタヌキの棲む自然豊かな森を学びの場とし、自然を愛し大切にする心や森林に対する理解を深める事で「自然との共生」を目的とする知的な経験を踏まえた幼児教育活動。この活動を中心に親子・卒園生・地域の住民の方々にも、植樹や造成等の自然保護体験活動を基軸にし、自然・動植物との関わり方をそれぞれが学ぶ機会を提供する。

事業成果

事業開始当初は、活動を通しての保護者や地域の方を含めた活動の広がりを感じていた。そこでは、身近にある豊かな森の成り立ちやその全体像を知り、森を活動の場とし参加者と協力し活動していく機運は高まっていった。ただ、中盤から後半に計画していた活動が、コロナ禍で行えなかった。しかし、職員を中心に今後につなげていくための作業(倒木などの処理・伐採・造成)を続けたことは、今後への

活動を行う上では土台となる部分であった。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもの頃に遊んでいた森の活動に、森のこと知る専門家の一人として参加できたことは感慨深かった。園に通う子どもたちが、そこに棲む動物に関心を持ち「どうやったら、友だちになれるのかなあ」という言葉聞いたときは、大人とは違う感性でこの活動に参加していることが分かった。幼少期からの経験の大切さを感じた。(造園業)

参加者の声

- ・改めて森のことを意識し、自分や子どもといっしょに何ができるかを考える機会となった。また、途中台風の被害で活動していた森に倒木などの被害があったことも災害という面で森との関わりを考える契機となった。(40代男性)
- ・今後も森を守り育てるために、子どもたちとこのような活動を行っていくことの大切さを感じた。(30代女性)



看板づくり



伐採した木を引き出す



剪定した枝葉などは腐葉土に



倒木などを伐採

実績とりまとめ

作業内容

- 下刈面積：1.03ha
- 間伐面積：1ha
- 森林資源活用：40回
- 斜面地整地：50回
- 森林教室：3回
- 野外活動：1回

参加者数

- 県内：610人
- 計：610人

カブト・クワガタの学びの森づくり

長崎県佐世保市



事業概要

目的は、子どもたちが森での体験や体感をしながら、森の生態系の多様性などについて学んでもらうこと。主な活動は、①クヌギの植樹、②カブトムシ・クワガタムシの飼育と観察学習、③広報活動。

事業成果

コロナ禍のため活動期間を1年延長した。活動の取り組み状況については、フェイスブックで情報発信をしている。植樹活動を通して森林組合関係者や緑の少年団経験者等との繋がりも得られた。昆虫の飼育や観察に関しては必要な

器材ほか環境整備ができた。技術的なノウハウや知識については、多くの昆虫愛好家の協力を得られ連携もできている。

事業をよく知る関係者の声

- ・少子化と指導者の高齢化の中で植樹等の事業活動は「継続が困難で植えっぱなしもある」と事業活動経験者や林業関係者から聞いた。塾や習い事に忙しい子どもたちを自然やその多様性を学習体験する事業に誘うには、子どもやその親にとって魅力ある企画・活動であることが必要であると考えられるので、コロナの終息を見据えて研究していきたい。



昆虫飼育用の腐葉土づくり



子どもたちがクヌギを植樹



地域の人による植樹



下刈

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha

植付本数：80本

除伐面積：0.01ha

参加者数

県内：50人

計：50人

樹種

クヌギ

ガーナ植林・日本式炭焼普及プロジェクト

ガーナ・マンクランソ村、ダーソ村、東京都新宿区



事業概要

森林減少が進むガーナ中部で、植林により森林の再生を図り、砂漠化防止、農地の地力維持に貢献するため2015年度からマンクランソ村に植栽してきたニーム（インドセンダン）は根元径20cm以上に成長しており、本年度も間伐を実施した。間伐木や製材工場のオガクズ等を炭にするため、2017年度に増設した日本式炭窯を用いて、ニーム間伐木の炭焼きを行った。また、マンクランソより北部の半乾燥地への移行帯にあるダーソ村で新たに植栽するため、行政区長や土地所有者である伝統的チーフとの話し合いを継続し、さらに元大統領への説明を行うなど中央政府の理解を求めた。

事業成果

アクマダン地区ダーソ村出土地を確保すべく地区長と会

談、また女性の伝統的チーフと話し合い、これは継続している。この間、ダーソ村の小学校と植林を計画し、ダーソ村の農民に委託して苗木生産を行ったが、小学生との植林はコロナが長引いて中止となった。また、炭焼きについては、炭窯の改良、修復を重ね、その都度の炭焼きはうまくいかなかったが、2021年4月に成功した。

事業をよく知る関係者の声

- ・小学校の植樹イベントがコロナで中止になったのは残念。ガーナ農業環境大学は今年から近くの小学校で植樹イベントを始める。(同大学教授)

参加者の声

- ・4回失敗した炭焼きの成功、おめでとうございます。ガーナへの普及はこれからです。我々も手伝いますよ。(ガーナで立ち上げ予定のNGO)



間伐前のニーム林



間伐後のニーム林



間伐して炭窯前に並べたニーム



修繕した炭窯での炭焼き

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：1.3ha
苗木生産：1000本
炭焼き：3回

参加者数

日本：20人
ガーナ：10人
計：30人

オランウータン保護活動の基盤強化に向けた住民共同での植樹活動

インドネシア・東カリマンタンブラウ県



事業概要

目的は、インドネシアにおいてオランウータン保護活動の拠点となる地域を、周辺コミュニティと共同して植樹活動を実施することで、長期的に保全していくことである。主な活動は以下のとおり。①全体のスケジュール調整、および現地カウンターパートを通じて周辺コミュニティへの説明と合意の締結、②植樹対象地域（火災被害を受けた地域）の調査と樹種の選定、苗床の設置、③苗木の調達、植樹活動、④整地作業、モニタリング、記録など。

事業成果

実際に植林活動が地域社会に与えた影響を評価できるようになるまでには時間がかかるが、苗床の設置や実施体制の整備といった今後も植林活動を広げていくうえでの基盤

を整えることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・新型コロナウイルスの蔓延により、プロジェクトを2020年6月末までの予定通りに完了することができなかったが、ラバナン演習林を管轄している地方政府との合意を締結し、周辺コミュニティによる参加のもと植林活動を実施することができた。（現地カウンターパートコーディネーター）

参加者の声

- ・孫の世代まで植林した樹木による恩恵を受けられるようになることを望んでいます。この苗を与えてくださった関係者の方々に感謝しています。（住民）



火災のあった植樹対象地域の調査



苗床の設置



購入した郷土種や果実の苗木



植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：20ha
植付本数：2505本
苗床の設置：1カ所

参加者数

インドネシア：50人
計：50人

樹種

在来種、果樹

家庭菜園を利用した持続可能な苗木生産の創出

タジキスタン・ログ地区、クマルク地区、ロミ地区



事業概要

気候変動のもとで厳しい生活を強いられている地域住民が、より安定してその生活を継続するために大切な生態系の管理手法を地域ごとに研究し、必要に応じて植林活動等を実践する。継続的に植林活動を推進するには「自前で苗木を供給できる仕組みを整えること」が大切である。具体的には、地域住民の家庭菜園を利用して一部を苗畑として転用し、植林事業区ごとに苗木を生産すれば苗木購入費だけでなく苗木の輸送費も軽減するばかりでなく、春先の雪崩の危険を冒して苗木を長距離輸送する必要もなくなる。また、果樹園用の苗木に余裕ができた場合には、地域の小学校等教育機関に無料で配布され、学校林として環境教育に役立てられる。市場等で販売された収益は苗木生産協力者の利益として還元され、地域住民の民生安定に貢献する。

事業成果

地域住民の所有する家庭菜園の一部を利用して約2haの



アプリコットの枝を剪定



移植後



ブルンに薬剤散布



クルミの苗木

苗畑を作った。苗木を自立して生産すれば苗木購入費や苗木の輸送費を軽減することができる。将来持続的な植林活動が期待できる。苗木は目標数を2年間で達成したが、コロナ禍でも自主的な植栽活動が実施された。クルミ林の移植が行われた。結果は干ばつのため、多くの苗木が枯死。河川蛇行による林地浸食の被害があった。リンゴ、アプリコット、チェリーの収穫があった。

事業をよく知る関係者の声

- ・植林事業の成果は年々果実の収穫が増加しており大成功といえる。(クマルク地区住民)
- ・植林は大成功だ。浸食防止のため護岸工事の資材援助が必須だ。(マドルシュカット地区住民)

参加者の声

- ・参加者からこれまでの援助に対してふかい感謝の言葉と事業に対する強い支持があった。(クマルク村長)
- ・自主的に果樹園を管理する意識が醸成されている。(教員)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：20ha
植付本数：1060本

参加者数

タジキスタン：50人
計：50人

樹種

アプリコット、マツ、リンゴ、チェリー、ポプラほか

ブラジル国トカンチンス下流域河畔林地帯におけるアグロフォレスト植林事業

ブラジル・パラ州トメアス郡



事業概要

河畔林地帯に、原生樹種や果樹によるアグロフォレストリー植林を導入し、アサイー以外の作物による収入源を追加するとともに、同地域における原生樹種の増加をめざす。現地カウンターパートであるトメアス総合農業協同組合と共に、2005年度から小農家の組織化を図り、苗畑整備と苗づくり等の指導を行ってきた。その結果トメアス郡に12カ所の小農家生産者協会において苗畑整備ができ、アグロフォレストリー農法・植林が普及されつつある。本事業では、アサイー生産地のカメタで苗畑（苗生産能力2万本）を設置、また、同時にモデル植林（1ha）を実施した。

事業成果

カメタの小農家生産者協会で苗畑を設置し、また、同時にアグロフォレストリーモデル植林（1haに1000本）を実施した。アサイー生産農家は現地訪問指導による技術指導によって、苗づくりや適切な施肥・石灰の使用方法、植付方

法、剪定方法、植栽後の管理などについて学んだ。

事業をよく知る関係者の声

- ・アグロフォレストリー植林は地域住民の多角経営につながり、一年を通してアサイー以外で収入を得ることで、住民の生計向上に貢献し、同時にアマゾン地域の生物多様性保全につながることから大変重要である。今後も継続的に行い、周辺地域に普及させ、カメタの発展に貢献してもらいたい。（生産者協会会員）

参加者の声

- ・アサイー生産者にとって大変有意義であった。アサイー以外の農産物の販売により、将来的に収入を増加させ、生計を向上させていきたい。（50代小農家男性）
- ・カカオなどの果樹が順調に成長し収穫できるのが楽しみ。（20代小農家女性）
- ・苗づくりと植栽法について学べて良かった。（20代小農家男性）



アグロフォレストリーについてのワークショップ（カメタ市）



アグロフォレストリーの管理法について指導



苗畑



カカオの植付け

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1ha
植付本数：1000本
技術指導：20回

参加者数

ブラジル：156人
計：156人

樹種

カカオ、アサイー、アンジローバ